

2020年1月NHK北海道地方放送番組審議会

1月のNHK北海道地方放送番組審議会は、15日(水)、NHK札幌拠点放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、北海道クローズアップ「東京で輝け！どさんこアスリート」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、2020年2月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	山下 徹也	((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)
副委員長	蛭田亜紗子	(小説家)
委員	今村 江穂	(NPO 法人子どもと文化のひろば ふれいおん・とがち 理事長)
	桐生 宇優	(北雄ラッキー株式会社 代表取締役社長)
	倉本ひと恵	(オホーツクベーグル 代表)
	齋藤 拓也	(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)
	佐々木良榮	(デザイナー、(有)良栄・PLAN 代表取締役)
	成田 正夫	(ながぬま農業協同組合 代表理事組合長)
	船山 大介	(特定非営利活動法人 No Limits 理事長)
	村田 博	((株)村田商店 代表取締役)

(主な発言)

<北海道クローズアップ「東京で輝け！どさんこアスリート」

(総合 1月10日(金)北海道ブロック)について>

- 旭川出身で女子やり投げの北口榛花選手を高校生の段階から取材しており、留学先のチェコまで追っていて大変興味深く見た。こういった放送によって、オリンピックに対する北海道民の期待も非常に大きくなると思う。冬は雪に閉ざされたイメージが強い北海道で、北海道ハイテクAC(アスリートクラブ)の取り組みも興味深かった。また、100mハードルの寺田明日香選手がママさんアスリートとして活躍する姿は、女性にとっても勇気を与えたのではないかと。そして、パラサイクリングの藤田征樹選手の着けている義足が、年々変化している様子も大変分かりやすかった。藤田選手の義足を制作している義肢装具士の齋藤拓さんの話をもっと聞いてみたいと思った。オ

オリンピック・パラリンピックは選手たちだけではなく、技術をサポートする人がたくさんいることを改めて感じ、そうした周囲の人たちにもスポットを当ててほしい。

- 北口選手が冬場の練習場が少ないというハンデをどのように乗り越えたのか、去年10月の北九州陸上カーニバルで新記録を出したのだが、そこに至るまでの時系列が分かりづらく感じた。また、引退から7人制ラグビーで現役復帰をした寺田選手が、ラグビーの動きが実はハードルの体作りに役立ち、再びハードルに転向後に日本新記録を出したということに非常に驚いた。パラサイクリングの藤田選手も、前回大会での悔しさを真摯（しんし）に受け止め、齋藤さんと一緒にいろんな想定をしながら取り組んでいる姿は本当に印象的だった。
- 北口選手のことは高校時代から知っていたが、ケガやコーチの不在など大学での練習環境はとても厳しい印象を持った。しかし、その逆境をはねのけて、夢をつかみ取ることができるアスリートだと感じた。北海道ハイテクACの中村宏之監督が、雪国の逆境を力に変えてさまざまな練習方法を編み出し、北海道の陸上文化を築いた様子がとても印象的だった。豊かなスポーツ文化を育むためには勝つことだけではなく、そのためのプロセスを選手と一緒に丁寧に歩めるような指導者の育成も課題だと改めて感じた。藤田選手の話からは、全身の筋力トレーニングと同時に義足の改良が大きなウエイトを占めているということがよく分かった。パラリンピック競技は種目によっては装具のよしあしが結果を左右するという側面も、少なからずあると思う。ただしそれは、北海道特有のケースではないので番組から得られる満足感は少なかった。
- 夏の競技で力を発揮する選手たちが、冬の北海道という逆境をばねにして実力をつけているという番組のコンセプトや構成はよかった。北口選手が日本記録を更新するまでの映像も、高校時代からこれまでを取材してきた積み重ねで丁寧に再構成しており、大学時代の苦労や留学など、その後の躍進に至る過程も丁寧に振り返っていた。また、恵庭市の北海道ハイテクACで工夫して行われているトレーニングを浅野里香アナウンサーが体験することで、視聴者にもその大変さが分かりやすく伝わったのではないかと感じた。寺田選手が一度引退してから現役復帰をするまでの難しさや、藤田選手がパラサイクリングに転向した経緯と勝負にこだわる姿勢も印象に残った。オリンピックとパラリンピックを分けずに一つの番組の中で、北海道にゆかりのあるアスリートとして取材していることにも、いい印象を受けた。道内出身のほかの選手も今後いろいろな形で紹介してほしい。

(NHK側)

北海道出身で夏季オリンピックに出場する可能性がある選

手をたくさん紹介したいと思い企画した。オリンピックとパラリンピックは分け隔てなく取材した。ただ、選手の多くが海外遠征中のため道内におらず、取材できる選手が限られたため、この3人を選んだ。

- 番組冒頭で選手の等身大パネルが多く並んでおり、選手の大きさやオリンピックやパラリンピックに出場する可能性のある北海道出身の選手がこんなたくさんいるのだと分かりわくわくした。北海道ならではの冬の問題という視点もよく、恵庭市の北海道ハイテクACという陸上クラブの屋内練習場があることで、近年北海道の陸上選手が活躍できるのだと分かった。「不自由な環境があったほうが人間は考える」という中村監督の言葉は印象に残った。短い映像だったが、やり投げの北口選手の成長ぶりを見ると応援に力が入る。寺田選手が現役復帰したというドラマチックな展開には驚くと共に、こういった選手が出ることは女性アスリートの可能性を示し、勇気を与えることだと強く思う。しかし3人の選手以外は、番組冒頭で並んでいたパネルの選手についての紹介はほとんどなく、オリンピックへの出場を目指している選手の紹介はしたほうがよかったのではないか。番組を見ることでオリンピックが身近に感じられて、選手に注目して見てみたいという気持ちも高まった。
- タイトルの「東京で輝け」が東京オリンピックではなく、「東京という場所で頑張れ」というイメージで、それがずっと残ってしまった。はっきりと「東京オリンピックで輝け」のほうがよかったと思う。3人の選手の特集はどれもとても分かりやすく、それぞれの選手が苦労して現在の記録を作ったということが分かり、応援したいと思った。北海道ハイテクACについて、選手が自分からやって来るのか、それとも北海道ハイテクACが受け入れる選手を選んでいるのかなどの成り立ちが分からなかったのも、知りたくなった。中村監督の「不自由な環境があったほうが人間は考える」という言葉は、生活や人生で何かにつまずいた時にも、乗り越えるべきヒントになるものだと思わせてくれた。また、冒頭で紹介された中にスケートボードの女子パークの開心那さんという11歳の選手がいた。オリンピック出場における年齢制限はどうなのかも知りたかったので説明があるとよかった。

(NHK側)

オリンピック出場の年齢制限については、各競技で異なる。日本ローラースポーツ連盟関係者によれば「スケートボードは五輪出場に年齢制限はない」とのことであり、11歳でも出られる可能性はある。

- ふだん接する機会があまりない競技に焦点が当てられており、興味を持ってしっかり見ることができた。藤田選手が北京パラリンピックで銀メダルを取った際に「負けた」と言っていた映像があったが、その言葉から競技に対して貪欲で、強い意志を持って挑んでいるのが伝わり、感動した。ほかの選手や周囲の人たちからもそういったレベルの話を引き出すことができれば、もっと心に響く番組になったのではないか。北海道のアスリートに興味を持ってもらい、その競技に注目してもらいたいという試みは大変よかった。オリンピック自体を盛り上げるためにも、まだ開催まで時間があるので、引き続きこのような番組の放送を期待したい。

- 北海道でもオリンピック・パラリンピックをより身近に楽しむための情報がたくさん提供されていて楽しく視聴した。冬というハンデを強みに変えるアスリートは頼もしい感じがした。中村監督の「不自由な環境があったほうが人間は考える」という言葉は、スポーツだけではなくさまざまなことに通じていて、本当にすばらしいコメントを引き出したと思う。登場する3人のアスリートも三者三様で、それぞれ違うアプローチで目標を目指していく情熱を感じる構成だった。番組途中で北京パラリンピックの会場でウェーブが起きている映像が流れていたが、東京パラリンピックも盛り上がってほしい。

- とても興味深く引き込まれて見て、あっという間に25分が過ぎた。あえてメジャーではない競技を紹介していてとてもよかった。女子やり投げの北口選手は大学のコーチの不在からチェコへの留学、帰国後半年で日本新記録を出したという成長にととてもわくわくした。だが、チェコへの留学費用やコーチ代などはどうしたのかといった金銭面が気になった。寺田選手が引退後の妊娠・出産を経て7人制ラグビーに復帰して100mハードルに戻るといふ、紆余曲折を経て今一番強くなっているという経緯は、多くの人に希望を与えるのではないか。だが、VTR後のアナウンサーのコメントは情報を補足するような内容もあるが、やや取って付けたような感じもあった。十分に魅力的な選手たちなので、あえて結論づける必要はなかったのではないか。

- もっとたくさんのアスリートを紹介してくれる番組だと思っていたので残念だった。この3人にスポットを当てて、意図をもって制作されたのは番組としては分かりやすかったが、道内の惜しくも代表に漏れてしまった選手や、けがに泣いたり、スランプにあえいだりしている選手にスポットを当てる番組があってもよい。25分という短い時間の中で、この3人にさまざまな内容を込めた番組構成はすばらしかった。

(NHK側)

北海道ハイテクACの中村監督の「不自由な環境があったほ

うが人間は考える」という言葉は、番組全体の中でも大きなメッセージが込められているので、ぜひ紹介したかった。オリンピックに出場する選手以外にもさまざまなドラマがあると思うので、その人たちについてもスポットを当てて紹介していきたい。

<放送番組一般について>

- 12月21日(土)の北海道LOVEテレビ プロジェクトX 挑戦者たち・選「釧路湿原 カムイの鳥舞え」(総合 前10:54~11:37 北海道ブロック)を見た。自然保護と農地開発のぶつかりを描いており、どちらも大事な視点で大変興味深かった。2003年の古い番組だが、番組の力というのはずっと残っていくのだと改めて感じた。鳥のさえずりや羽ばたきが音や映像で残っているということがいかに貴重であるか、自然の開発と保護の難しさを改めて考えさせられた。司会者やナレーターも懐かしかった。
- 1月10日(金)のいくぞ〜!北の出会い旅「グルメにアクティビティ!江別・岩見沢の魅力を再発見!」(総合 後8:00~8:42 北海道ブロック)を見た。地元の人にとっては当たり前でも、住んでいない人たちには知られていない街の魅力を感じられる、おもしろい番組だった。グルメとアクティビティということで軽い感じで、時間的にもテンポよく見る事ができた。だが、番組の途中で出演者が近くを歩いていた女子大学生の腕を強引に組んで歩くシーンがあったが、女子大学生は少し嫌がっている感じがした。
- 出演者のトークや突っ込み、むちゃ振りには少しきついのではないかと感じた。特に女子大学生と歩く場面は、厳しい見方をすると問題になりそうだった。最後の弾き語りには本当にすばらしかった。
- ゲストの宮澤佐江さんは番組を盛り上げようと積極的に参加していて、好印象を持った。出演者は途中からお酒が入っていたということもあり、いつにも増して自由で、近くを歩いていた女子大学生の腕を組む姿は見ていて心配になった。しかし、番組後半で「フレンドリーにならなきゃだめだと気づいた。この番組で変わった」という出演者の言葉に、この番組に取り組む気持ちが分かり見方が変わる瞬間があった。最後に短時間で制作した歌を披露していたがとてもすばらしく、いい気分で見終える事ができた。42分という番組の長さもちょうどよかった。
- 42分という長さとその中の情報量とのバランスが非常によく、とても興味深く飽

きることなく見ることができた。地元の観光協会やさまざまな店舗や工場など、決して大きな観光地ではないがそれぞれの街の見どころを余すところなく取材していた。出演者の接し方についてはいろいろな意見があると思うが、楽しさを表現する手法としての流れだと感じる。出演者を変えながら新しい化学反応を起こせるよう、今後の番組にも期待したい。

(NHK側)

出演者はカメラの前ではあえて強引な感じにふるまっているがカメラを止めた後にはとても配慮のある方で、地域の方々とも優しくコミュニケーションをとっている。

- 「ひるまえナマら！北海道」を見ている。1月6日(月)のゲストは人形劇俳優・立川佳吾さんだったが、地方で活躍している方がゲストに来ることが多いので、どういう方なのかという詳しい紹介がもっとあったほうがいいのではないかと。「チェックそらもよう」のコーナーではお天気カメラが道内2市を映し出すことが多いが、この時間帯の2市の天気予報はそれほど重要なのか。週間天気予報も一貫性がなく手描きの予報図も見づらいため、全道の傾向がどうなのかが伝わってこない。だが、その他のコーナーでは専門家によるインフルエンザの予防と対策を伝えたり、道内で開催されるイベントを伝えたりするなど、思わず行ってみようと思ってしまう情報提供でとてもよかった。
- 1月14日(火)のほっとニュース北海道の「新春ほっとインタビュー」を見た。東北地方や北陸地方で20年以上の杜氏経験があり、現在は上川町の酒蔵で純北海道米を使った地酒作りに挑戦している川端慎治さんの、地元の人に飲んでもらおうという気持ちが印象的だった。酒米の生産者と意見交換をする場面からは、川端さんが生産者としてしっかり向き合い、いろいろとコミュニケーションを図りながら取り組む姿勢を感じた。お互いに求めるもの、求められるものをそれぞれが共有することで、いいお酒が造られるのだと改めて教えられた。そして、帯広畜産大学と協定を結んで大学の構内に大型の酒蔵を建設し、学生や先生たちに麹や発酵に興味を持ってもらい、将来の道産酒市場を活性化しようとする取り組みは、すばらしいことだと思った。短い時間ではもったいないと思える、本当にいい企画だった。
- 12月31日(火)の第70回NHK紅白歌合戦「夢を歌おう」を見た。平均視聴率が史上最低だったと報じられているが、みんなの興味関心が多様化している時代で、録画や見逃し配信の広がりもあって、リアルタイムで見る世帯が対象の視聴率だけに過剰にとらわれる必要はないと感じている。これからも幅広い世代を楽しませる企画

を作り続けていただきたい。

- 審査員席の位置や人気のある歌手を再登場させる演出は、一昨年の回を踏襲した感じという印象を受けた。
- AIの美空ひばりさんについては賛否があったと思う。だが、それだけ話題性のある内容ということであり、そのおかげで若年層もしっかり取り込めたのではないかという感じがする。
- 日本人の琴線に触れる年末の風物詩だが、人々の興味関心が多種多様になってきているので、公共放送として変えるべきところは変え、残すところは残すという毅然とした態度と方向性を持ってもらいたいと思う。
- 1月6日(月)のニュース シブ5時の「行け！マッキー 難易度MAX初詣スポット」を見た。北海道せたな町の山頂付近の洞穴の中にある太田神社に参拝するための大変さが、町の商店街の方々の表情や話からも伝わってきた。山岳ガイドの佐藤佑さんの指導のもと、40度以上という傾斜から始まる石段を登る姿に驚いた。途中危険な場所もあり、訪れる人が増えるという期待もあるが、事故が起きないようにと思わず願ってしまう。道南は海産物に焦点がいきがちなので、太田神社が取り上げられたことは今までとは違う印象を与えることができ、非常によかった。
- 1月6日(月)の逆転人生「全国から注目 離島の高校 廃校危機から変革が起きた」を見た。再現VTRのほか、当時の海士町職員で島根県立隠岐島前高校の改革を願った吉元操さんもスタジオに来ていて、廃校の危機や地域住民との交流など、目の前の問題をどのように打開してきたかを分かりやすく話していて、とてもいい番組だった。北海道でも起こりうることなので、こういうことが取り上げられて番組になることはいいと思う。
- 1月8日(水)のあさイチ「最強の食事！アブラの新常識SP心臓病・がん・花粉症・美肌に」を見た。オメガ3脂肪酸の紹介だったが、がんの予防やADHDの改善など、根拠がどこまであるのか、言い切れないことを伝えていた。スタジオでは乳がんや産後うつなど、とてもはっきりした根拠があるとは思えない効能がパネルに書いてあり、特にADHDに関しては、視聴者からの質問に対して専門家が「まだ研究段階ではあるが、症状が落ちついてくる」と言っており、番組の取り上げ方としては非常によくないのではないかと。そして、オメガ3脂肪酸を含む食品としてサバの缶詰を挙げていたが、インターネット上での健康情報や医療情報などのいい加減さがとても問題に

なっているだけに、もっと慎重な番組作りをしてほしい。

- 1月11日(土)の「しろくまピース20歳～家族と歩んだ“いのち”の軌跡～」(総合 後 7:30～8:15)を見た。愛媛県立とべ動物園の飼育員である高市敦広さんにスポットを当てた番組で、生後間もないしろくまのピースを団地で3か月間育てた映像に大変感銘を受けた。20年前から丹念に取材をしていたすばらしさと、しろくまの赤ちゃんのかわいらしさが見る人を強く引きつけたと思う。高市さんが日本初のしろくまの人工飼育記録を丹念につけていたことがすばらしく、いろいろな動物園でその飼育記録が活かされているということを知った。こういった方々の日々の努力は私たちには見えてこないが、テレビを通して感じることができ感動した。動物のかわいらしさだけではなく、動物に寄り添う飼育員の方々の苦勞を感じることができるとてもいい番組だった。
- 1月11日(土)のNHKスペシャル「認知症の第一人者が認知症になった」を見た。タイトルは強烈なインパクトがあり、認知症の第一人者である専門医の長谷川和夫さんが示す認知症の世界に関心があり、引き込まれた。症状が進行するにつれて、家族が直面する絶望感や葛藤、長谷川さん自身が変化を語る場面はとても興味深かった。また、専門医師として家族の負担や患者の精神的な刺激を増やすために推奨していたデイケアを自ら体験し、その在り方の理想と現実をととても赤裸々に語る姿は感慨深いものがあった。そんな中、進行しても講演会を辞めず紡ぎ出される言葉が、今後患者さんと家族のケアを前進させていく研究に大いに役立っていくというのが想像でき、「君自身が認知症になって初めて君の研究は完成する」という先輩医師の言葉を見事に体現されていた。とても見応えのある番組だった。
- 認知症医療の第一人者である長谷川さんと家族の1年間を追った番組で、人間の尊厳とは何かをととても考えさせられた。家族の負担が軽くなると考えた外来患者のためのデイケアの提唱者でありながら、自らそれを受けて利用を嫌がる姿も印象的だった。本人がどういった心情でいて、家族がどこまで寄り添っていけばいいのか、少しでも進行を遅らせるためにはどのような生活を送ればいいのかなどと、手探りで悩んでいる時のヒントを得ることができた。
- 1月1日(水)の「100分deナショナルリズム」(Eテレ 後 10:00～11:40)を見た。ゲストがそのテーマに関する本を選び、それに基づいて解説する充実した作りで、ふだんよりも人が多く集まって議論すると、そこからまた面白い話が出てきて、見応えのある番組だった。だが、ナショナルリズムというテーマには沿っていないと感じられる本もあったので、もう少し考えて選んでほしかった。また、NHKでやるのであれ

ば、「放送メディアとナショナリズム」といったような内容の本もあればよかった。

- 1月10日(金)のあしたも晴れ！人生レシピ「夢を実現！今からだって遅くない！」を見た。60代の方々の夢の実現を通して、リタイア後のセカンドライフに夢を持って頑張りましょうと伝えていた。ゲストの言葉からも何かを強要された感じを受けた。きれいな話を押しつけられた気がして、どうなのだろうかと逆に疑問を持った。

NHK札幌拠点放送局
番組審議会事務局